



## 76回目の「慰霊の日」

2021年6月23日、沖縄は76回目の「慰霊の日」を迎えました。県民の4人に1人、12万人以上が犠牲になったと言われていますが、戸籍が焼けてしまったり、家族全員が亡くなった家も数多く、正確な犠牲者の数は今もわかっていません。

地上戦も行われた沖縄戦では、空からの攻撃に加え、陸からは銃や大砲、火炎放射器、海から艦砲射撃で狙われ、爆弾が大嵐のように降り注いだことから「鉄の爆風」とも言われています。

その後沖縄は日本本土から分離され、アメリカの施政権下に置かれました。1972年5月に本土へ復帰しますが、今もなお沖縄には多くの基地が存在し、辺野古では新基地建設が進んでいます。最近になり、沖縄戦で犠牲になられた方の遺骨が含まれた土砂が新基地の埋め立て工事に使われる可能性も出てきました。

JR 東労組は「若者たちの沖縄平和研修」を通じて、現地に立つことの大切さ、戦争の真実と本質を学ぶことができました。戦争で犠牲になるのは弱い立場にある私たち労働者や市民であって、コロナ禍であっても平和を訴えていくことには変わりはありません。戦争のない平和な社会をめざすために、青年部から声を上げていきましょう！！



ひめゆりの塔 (写真右) ▶

ひめゆりの塔のそばにあるガマ (洞窟) は「伊原第三外科壕」と呼ばれ、ひめゆり学徒を含む陸軍病院関係者、通信兵、住民などおよそ100名がいました。6月19日早朝、米軍のガス弾攻撃を受け、80名あまりが亡くなりました。

◀ 平和記念公園内にある平和の礎  
国籍や民間人、軍人などの区別をせず、沖縄戦で亡くなった24万1632名の名前が刻まれています。今年は新たに申告のあった41名の名前が追加されました。

